

科目名	子ども文化		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
	担当者	安藤 節子						単位数	2
授業のねらいと概要			保育における児童文化について学ぶ。 保育の中で生かすことのできる内容を実践する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育において使われる様々な児童文化財を活用した、実践のあり方を具体的に学ぶ。 ・幼児の前での実践の経験をする。 								
学習者への期待 (含準備学習)	現代の乳幼児を取り巻く、様々な児童文化への関心をもってほしい。 文化財の実践では、積極的に取り組み、自分なりの表現の仕方を身につけてほしい。								
回	授業計画			授業内容					
1	保育における絵本について			大型絵本に親しむ					
2	同上			私の好きな絵本について					
3	絵本の与え方			実践をしてみる					
4	紙芝居について			日本の昔話					
5	紙芝居			生活紙芝居・行事の紙芝居					
6	自然物で遊ぶ			身近な植物・自然物を使ってのお話作り					
7	紙類を使って			紙コップ、面用紙 などを使ってのお話作り					
8	同上			紙袋人形の制作と実践					
9	布を使って			制作と実践					
10	伝承遊びについて			意義と実践					
11	伝承遊びについて			実践					
12	乳幼児のための作品と実践			グループ制作					
13	同上			同上					
14	同上			同上					
15	同上			発表					
テキスト	『保育用語辞典』								
参考文献									

科目名	子どもと自然	必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	30%
							レポート	—
担当者	永井 博敏	単位数	2	学年・期間	1 年 前 期		提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
							プレゼンテーション	20%
授業のねらいと概要	<ul style="list-style-type: none"> 古くから日本人の生活が自然と深くかかわり合っていることに関心を持ち、進んで身近な自然環境に触れ合う活動を行うようになることをめざす。 子どもの興味・関心を引く身近な動植物や科学事象についての基本的な知識をもち、探索活動などを支えることのできる資質を持った保育者となれるよう、学びを深める。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに関する基礎的な事柄が理解できる。 身近な科学事象の原理を調べたり、身近な材料を使ったおもちゃを製作することができる。 大学近辺の公園など身近な自然に親しみ、進んでかかわろうとする意欲や好奇心をもつ。 							
学習者への期待(含準備学習)	子どもたちは自然大好き、動物大好き。溢れる子どもの好奇心を支えることができるよう、普段から必要なことに興味・関心を寄せ、実践的な活動力を身に付けることを期待する。							
回	授業計画	授業内容						
1	オリエンテーション	○授業の全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明						
2	自然の営みと人間の生活－1 自然の営みと人間の生活－2	○映像資料(里山の自然と人間の共生)をもとに「古来より日本人の生活が四季おりおりの自然の営みと深くかかわってきた。」ことを知り、所見をまとめる。(映像資料)						
3	秋田の自然と伝統職人の技	○八郎潟周辺の自然の特徴と男鹿石の石工、潟魚の佃煮職人、矢竹作りの御矢師など伝統職人の技に触れる。(映像資料)						
4	身近な植物の基礎知識－春の1	○道ばたや公園、野原に見られる草花のあらましを知り、身近な植物に関する知識・理解を深める。						
5	身近な植物の基礎知識－春の2	○大学周辺のフィールドワークによって、公園や道ばたの草花の特徴を理解する。						
6	身近に見られる樹木の基礎知識	○街路樹、短大構内や公園の樹木について基礎的な知識を理解する。						
7	大森山動物園の動物たち	○大森山動物園の飼育動物の特徴や飼育についての知識を理解する						
8	男鹿水族館G A Oの生きものたち	○男鹿水族館の魚やその他の動物に関する基本的な知識を理解する。						
9	「子どもの大好きな生きもの図鑑」を作ろう－1	○子どもたちの大好きな“小動物・昆虫など”について、多様な情報をもとに「生きもの図鑑」を作る。						
10	「子どもの大好きな生きもの図鑑」を作ろう－2	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものの特徴 ・採集や飼育のしかた など 						
11	「生きもの図鑑の発表会」	○「生きもの図鑑」について発表し合う。						
12	身近な植物の基礎知識－夏	○近隣のフィールドワークによって、季節の違いによる公園の草花の変化を調べる。						
13	日常生活にみる科学的事象(浮沈子のしくみを探ろう)	○浮沈子を作って、圧力や浮力についての知識を得ると共に身近な材料を使ったおもちゃの作製をする。						
14	日常生活にみる科学的事象(動くおもちゃを作ろう)	○「動くおもちゃ」の原理に関する理解を深めるとともに、身近な材料を使ってさまざまなおもちゃを作製する。						
15	野外活動の楽しさとリスク管理	○幼児期における「自然探索や遠足」などの野外活動の有効性とリスク管理について必要な知識を獲得する。						
テキスト	自作プリントを使用(A4フラットファイル必要)							
参考文献	特定せず。(その都度、関連する書籍等を紹介する)							

科目名	児童福祉と家庭	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
							レポート	—
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年期間	1 年 前 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	子ども家庭福祉の概要と福祉の実現について学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と子ども家庭福祉の基本的理念を理解する。 ・子ども家庭福祉の現状、課題、取り組みについて理解する。 ・各種制度や社会資源に関する知識を身につけ、必要に応じて活用することができる。 							
学習者への期待 (含準備学習)	社会福祉の一分野である子ども家庭福祉を、身近なテーマとしてとらえて学習してほしい。 新聞記事やニュースなどをとおして、子ども家庭福祉に関心をもってほしい。							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	オリエンテーション	子ども家庭福祉の理念と対象、福祉と保育						
2	子ども家庭福祉の現状(1)	少子化社会、子どもが育つ環境						
3	子ども家庭福祉の現状(2)	子育ての課題と支援						
4	子どもの権利保障	子どもの権利、権利宣言、権利条約						
5	子ども家庭福祉の展開	戦前戦後の児童福祉、現代の児童福祉						
6	子ども家庭福祉の制度と実施体制(1)	法体系、国と地方の行政機関、専門行政機関						
7	子ども家庭福祉の制度と実施体制(2)	児童福祉施設の体系と運営、利用形態						
8	子ども家庭福祉の制度と実施体制(3)	子ども家庭福祉のマンパワー						
9	子どもと家庭に対する支援(1)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)						
10	子どもと家庭に対する支援(2)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)						
11	子どもと家庭に対する支援(3)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)						
12	子どもと家庭に対する支援(4)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)						
13	子どもと家庭に対する支援(5)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)						
14	地域における子ども家庭福祉(1)	地域の環境と課題						
15	地域における子ども家庭福祉(2)	住民主体の支援体制と活動						
テキスト	山縣文治編：『よくわかる子ども家庭福祉』(ミネルヴァ書房)							
参考文献	なし							

科目名	教育原理	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
			レポート		50%			
担当教員	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年 前 期		提出課題	40%
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	教育の意義や歴史、制度、内容と方法、現状と課題などについて、幼児教育に重点をおきながら体系的な学習を進め、教育全般について理解を深める。テキスト・プリント・パワーポイント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的な知識を身につけ、教育の可能性と限界が理解できるようになる。 ・教育の現状をとらえ、今後のあり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・自らの教育についての考え方を表現する力が身につくと同時に、実際に教育を展開する技能の基礎が培われる。 ・子どもの豊かな発達・成長を保障する教育への関心・意欲・態度が育つようになる。 							
学習者への期待(含準備学習)	事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等については質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。							
回	授業計画	授業内容						
1	教育とは何か	教育の意義と目的、素質と教育(内容を説明し、教育の可能性と限界について考えてもらう。)						
2	発達と教育	発達と学習、生涯発達と幼児期の教育(さまざまな学説を紹介し、自己の成長の問題としてふり返る機会とする。)						
3	幼児教育・保育の制度	幼稚園と保育所の歴史、認定こども園(テキストの記述をふまえ、幼稚園・保育所・認定こども園の将来像について意見を述べさせる。)						
4	教育課程の基本	教育課程とは何か、幼稚園教育の基本(幼稚園教育要領をもとにグループで討議し考えてもらう。)						
5	教育課程の編成	幼稚園教育の目的・目標、領域のねらい・内容(具体的に示し、教育課程の編成にとって何が必要かの理解をはかる。)						
6	指導計画	指導計画の種類、指導計画の作成(実際例を示し、形式・内容を分析・評価するワークを課す。)						
7	教育の方法(1)	環境を通して行う教育、遊びを通して行う教育(テキストの記述を分析し、これらの方法のねらいと今後の課題を発表させる。)						
8	教育の方法(2)	保育の形態、保育の方法(指導法)(内容を説明したうえで、課題の解決に必要なワークの体験をさせる。)						
9	教育評価	評価の必要性和対象、評価のすすめ方(内容を説明し、問題点や課題を探るワークを課す。)						
10	教師の役割	専門職としての教師、教師の態度や援助のあり方(映像資料をもとにしたグループ討議の結果を発表し、批評しあう。)						
11	子ども観の歴史(1)	諸外国の幼児教育思想、日本の幼児教育思想(あらましを説明し、違いや影響について考えてもらう。)						
12	子ども観の歴史(2)	幼児教育思想の実践から学ぶ(記録映像を視聴し、その意義についての自己の見解と感想を記述させる。)						
13	教育の現代的課題(1)	幼稚園・保育所と小学校との連携、早期教育、多文化教育(内容を説明し、現状と課題を認識できるようにする。)						
14	教育の現代的課題(2)	防災教育、防犯教育(実践事例を参考に、グループで討議し指導計画案を作成する機会とする。)						
15	教育の現代的課題(3)	いのちの教育、心の教育(実践事例を参考に、幼児期にふさわしい教育のあり方を考え、提案してもらう。)						
テキスト	小林建一：『保育者のための教育原理』(三恵社) 文部科学省：『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)							
参考文献								